

THE SHINGASHI BASIN NEWS

新河岸川流域しんぶん

発行 ●新河岸川流域川づくり連絡会 新所沢事務所
住所 ●埼玉県所沢市弥生町 2996-6 山口ビル1F TEL/FAX 04-2994-3212
発行日 ●2004年(平成16年)10月28日

VOL.29

里川

SATO GAWA



切り絵 毛利得範

例年になく雨の多かった10月でした。

中旬に実施した空堀川での「第3回川づくり見学会・交流会」は、曇り空の下ではありましたが、何とか雨に降られることなく、予定していた見学ポイントを全て見る事ができました。また、同じく中旬の「白子川源流まつり」は晴天に恵まれ、多くの参加者に、川に触れ親しんだり、川のことを考えたりするきっかけをつくってくれました。

これらはひとえに、川づくり連絡会メンバー個々の、川に対する日頃の行いや真摯な取り組みの賜ではないかと嬉しく思う次第です。

目次

- P2 レポート：「第4回白子川源流まつり」
- P3 白子湧水地の保全について
- P4-6 特集：空堀川見学会・交流会
川の知識Q&A
- P7 柳瀬川学「柳瀬川のなりたちを知る」
- P8 流域イベント・インフォメーション
新所沢事務所通信

第4回 白子川源流まつり

をレポート！

開催時期の違いもあってリレーフェスティバルには参加できませんでしたが、皆さん御存じのとおり白子川は新河岸川流域の川であり、「白子川源流まつり」も新河岸川流域の川まつりです。

それでは早速、去る10月17日(日)に大泉井頭公園で開催された、「第4回 白子川源流まつり」を覗いてみましょう！

白子川「第4回 白子川源流まつり」～湧き水と生き物豊かな白子川源流に～



スタンプラリーの説明
スタンプを集めて景品をゲット！



本部席の様子
湧き水保全への協力を願ひ中！

季節は秋だというのに幾日も雨の続いた今年の10月中旬頃でしたが、白子川源流まつりの当日は久しぶりに雲一つない秋晴れに恵まれました。

主催である「白子川源流まつり実行委員会」本田さんの挨拶で幕を開けたこのおまつりは、今年で4回目の開催になりますが、練馬区環境保全課の後援や同教育委員会の協賛、それに地元の商店や地域の人々の協力・協賛もあって「地域のまつり」として定着しています。

会場には、白子川の写真や学習内容の展示、白子川の動植物の展示や水中を撮影した映像の放映など、白子川に関する各種コーナーの他、ボーイスカウト練馬支部の皆さんによる「遊び」のコーナーやペットボトルボートの川遊びなど、大人も子供も楽しめるイベントがところ狭しと配置されています。

なかでも来場者の目を引いていたのは、ステージで行われた各種プログラムではないでしょうか？

小学生の合唱団や中学生の吹奏楽部の演奏の他、60年来白子川の源流近くに住んでいるという浅野さんの「昔の白子川の話」など、設けられた客席は常に多くの人々にぎわっていました。とくに、白子川の学習発表をした小学生の皆さんが、一人一人が手づくりの博士帽をかぶり「白子川博士」に扮して一生懸命に調査内容を発表する姿は、来場者に感動を与えるとともに、時折り見せる子供らしさには笑いをこらえきれない人もいたようでした。

ステージ・プログラム

※こちらが当日のステージ・プログラムになります。

- 12：30頃 大泉第二小学校合唱団の演奏
- 12：50頃 「白子川の音を語る」
- 13：20頃 大泉第二中学校吹奏楽部の演奏
- 13：45頃 大泉南小学校4年生
「白子川調べ学習」発表
- 14：40頃 「音の泉とおたまじゃくし」演奏
- 15：10頃 ゴーバックサタディズの
白子川にまつわる歌の演奏



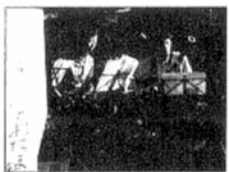
白子川博士の皆さん
手づくりの博士帽が、とても
よく似合います！



雨水利用を薦めるブース
子供たちも、皆、真剣に聞いて
いますね！

そして、最後はゴーバックサタディズの白子川や井頭公園にまつわる歌の演奏で終了になりました。

本田さんの開会の挨拶にもあったように、地域の人々が身近な川に触れ親しめることのできるこのおまつりが、白子川源流の湧水を回復させるきっかけになって欲しいと思いました。



ファゴットの演奏
音の泉とおたまじゃくしの
皆さんです。



ペットボトルボート
子供はみんな大はしゃぎです！

雨水浸透施設設置のお願い！

白子川源流まつりを後援する練馬区の土木部建設課では、区内在住の皆さんに雨水浸透施設の設置を呼びかけています。では、どうして雨水浸透施設が必要なのでしょう？

- 一、昔は田畑が多く雨水の多くは自然の土の中にしみ込んでいましたが、今は宅地や舗装道路などにより雨水のしみ込む場所が少なくなっています。昔のように雨水を土の中にしみ込ませれば総合的な意味での治水対策になります。
- 一、雨を庭にしみ込ませると保水機能が働いて草花や庭木の生育環境が良くなります。また、適当な土壌改良にもなるので、自然に近い生態系が生まれてくるとも言えるでしょう。
- 一、宅地化が進むとどうしても雨水がしみ込む面積が減り、地下水や湧水が少なくなってしまう。一戸一戸の家庭に雨水浸透施設を設置していくことで、それらが大きな力となり、地下水の涵養が図られ湧水も復活すると言えます。

このように雨水浸透施設の設置は、治水対策や自然生態系、地下水涵養等に影響や効果を発揮します。一戸一戸の家庭での設置が大きな効果につながるよう、雨水浸透施設の設置にご協力下さい。

なお、練馬区をはじめとする新河岸川流域の自治体には、雨水浸透施設の設置に関する助成を実施している自治体もあります。詳しくはお住まいの市区町または都県にご確認下さい。

和光市の宝 白子の湧水地 を保全しよう！

白子川源流まつりの当日、本部テントの一角では、本誌24号の特集記事で紹介した「白子川下流(和光市白子2丁目)の湧水群」の保全と継承について、「白子川の流域と水環境を良くする会」の皆さんが中心となって、来場者に呼びかけていました。

以下の主旨(概略)にご賛同いただける方がいらっしゃいましたら、以下の問い合わせ先に、11月20日(土)までに一報下さい。

東京近郊にある和光市では、その利便性から、ここと急速に土地やマンションの開発が進んでおり、さらには相続税支払いのための土地の処分や運用なども加わって、和光市に残された特徴的な自然環境の湧水と斜面林、屋敷林や社寺林、農地・田圃環境などは危機に瀕しています。

特に白子2丁目の湧水地は、都市近郊としては珍しい、生き物や植物の生息・生育と繁殖のありどころとなる他、人々の日々の生活に活かされた独自の湧水文化を育むなど、昔からずっと人にも生き物にも大切なところでした。

21世紀の人の生存と幸福にかかわる地域の環境を考えると、水と斜面林の縁が一体となっているこの湧水地を後背地とともに保全し、次世代に引き継ぐことは、現代に生きる私たちの、重要で緊急、かつ価値ある責務であると考えます。この湧水地の将来を危惧し、保全措置への行政の真摯な取り組みと、保全の早期実現を希求して、和光市議会への働きかけにご賛同いただけますようお願い申し上げます。

(問合せ：048-461-3387 「白子川の流域と水環境を良くする会」 加藤研二)

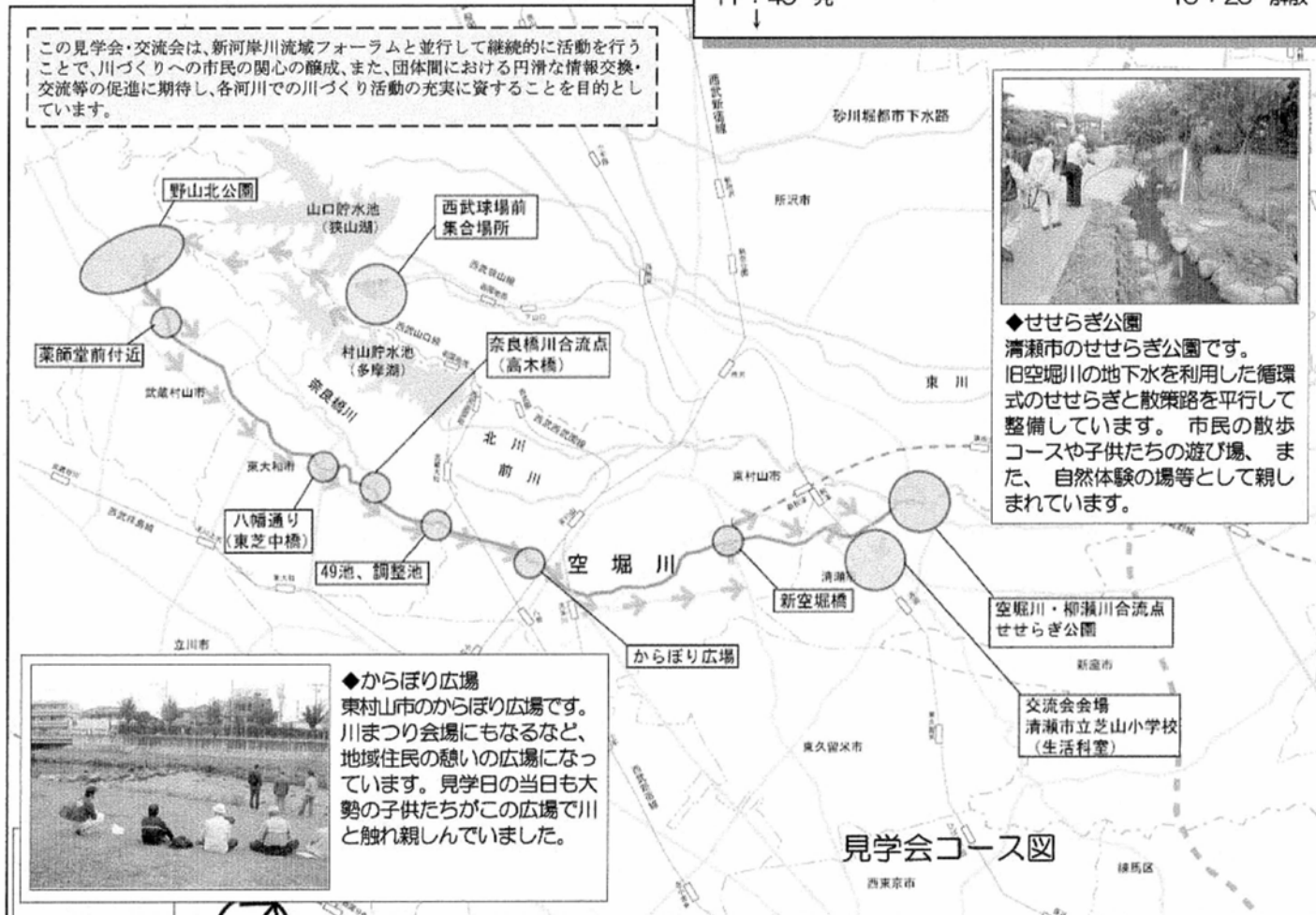


白子2丁目の湧水が湧く
崖線と後背の斜面林
浪々と湧き出す湧水

空堀川見学会・交流会の実施状況報告です！

しばらく降り続いた雨が前日までは止んだものの、生憎の曇り空で少し肌寒い天候でしたが、総勢 23 名の参加者で 9 箇所（内 2 箇所は車内より目視 ※見学地点及び当日のコースタイム参照）を見学しました。

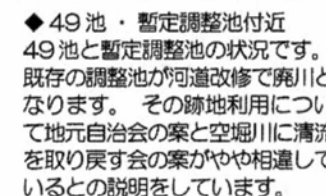
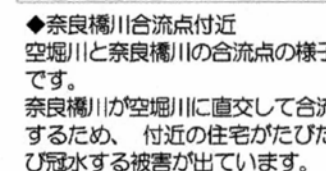
◆薬師堂前付近改修箇所
薬師堂前付近の河川改修が進む空堀川の様子です。
下流の整備が進むまでは、旧河道の越流水を新河道に貯留するよう、新河道に暫定的な調整池機能を持たせています。



9 : 50	西武山口線西武球場前駅出発	11 : 50	49池・暫定調整池 (26分)
↓		↓	
10 : 00	野山北公園 (28分)	12 : 16	発
10 : 28	発	↓	
↓		12 : 26	からぼり広場 (49分) 【昼食】
10 : 30	空堀川上流端看板 (停車車内より見学)	↓	
↓		13 : 15	発
10 : 37	薬師堂前付近／新原山橋 (23分)	↓	
11 : 00	発	13 : 35	新空堀橋 (車内より空堀川の水量を確認)
↓		↓	
11 : 10	八幡通り／東芝中橋 (7分)	13 : 56	空堀川・柳瀬川合流点付近、
11 : 17	発	↓	
↓		14 : 38	発 および せせらぎ公園 (42分)
11 : 23	空堀川・奈良橋川合流点付近 (26分)	↓	
11 : 49	発	14 : 48	交流会会場 《清瀬市立芝山小学校 生活科室》
		↓	
		14 : 57	交流会開始 (83分)
		↓	
		16 : 20	解散

※()内は見学の所要時間です

※（ ）内は見学の所用時間です。



交流会での参加者の意見 など

空堀川見学会の後、清瀬市立芝山小学校において交流会を開催しました。

はじめに東京都建設局河川部計画課から「柳瀬川流域河川整備計画(素案)」についての説明があり、その後、見学会の意見や感想の聴取およびフリーディスカッションを行いました。

主な意見・感想は以下のとおりです。※→は、東京都からの回答です。

- ・地域と川づくり団体との意見が相違するのは当然であるが、問題は目標年次をどうするかではないか？
- ・今の人たちのために川づくりを行うのか、孫の世代のための川づくりを行うのかの相違である。
- ・空堀川にはどうして河道に沢山の調整池が必要なのかと疑問に思った。埼玉県ではそのような対応はあまり見えていないが一体どこが違うのか？
- 河川は通常下流から整備するが、指摘されている箇所は先行的に上流から整備したもの。暫定という措置であり、将来的には現在調整池になっている箇所も河川となる。また、柳瀬川等の河川とは、沿川の土地利用状況に多少の差があるかも知れない。
- ・確かに、今日こうして空堀川沿川を歩いてみると、柳瀬川とは土地利用がだいぶ違うように感じた。
- ・空堀川上流での積極的な調節池整備の理由は分かった。しかし、それはまだ治水をメインにしたものであり、生態系に配慮をしたものとは言えないのではないかと？
- ・空堀川は上流から中流にかけては瀬切れがひどく、これをなんとかしなければならぬと思っている。
- ・今年は、埼玉県内の河川でも、入間川他3河川で瀬切れが起きた。
- ・北北建は川づくりに理解を示してくれている。金山緑地公園の整備に当たっては、早くから市民参加で公園づくりを進めてくれた。

川の知識Q & A

～雨水浸透施設の必要性～

第5回

昔は田畑や山林だったところに住宅や工場などが建ち開発が進んでくると河川の治水は新しい問題に直面します。田畑に降った雨であれば地面に溜まったり浸み込んだりしてゆっくりと川に流れ込むのに対して、建物や道路に降った雨はそのまま川に流れ込むからです。このため、開発が進んだ地域では、大雨になると一気に川の水量が増えるなど、洪水被害が起きる危険性が高くなります。

これまで洪水被害の危険がある河川では、川幅を広げたり川底を掘ったりする河道改修が行われてきましたが、新河岸川流域のような都市化の進展が著しい地域では、河道改修がいつかいつか発生しています。そこで、河川

や下水道の整備を進めつつ、都市化により低下する流域の保水・遊水機能を補うため、雨水貯留・浸透施設を整備し、一度に川に入ってくる雨水の量を減らすことで洪水被害の軽減を図ることが必要になっています。

このように流域の開発と河川整備を一体として進めることを「総合治水」といいます。



流域の都市開発によって
頻発する洪水被害のイメージ

しかしながら、既に都市化が十分に進展した地域では、流域内の開発に合わせて雨水貯留・浸透施設の設置を進めることは不可能です。そこで、流域内に住む皆さんが、例えば家を建て替える際に、浸透枳やトレンチ、貯留槽などの雨水貯留・浸透施設を設置していただく、その土地の保水機能を補うことが可能になり、洪水被害の軽減につながります。



柳瀬川学 「柳瀬川のなりたちを知る(地史)」

エコシティ志木では、去る10月21日(木)、「柳瀬川のなりたちを知る」をテーマに、柳瀬川と武蔵野台地の歴史を地学的に解説する特別講座を行いました。講師は埼玉県立所沢高校教諭の正田浩司先生です。

講義の時間が午後7時からの2時間、それも「地学」といういかにも堅そうな学問では、さぞかし難解で眠くなってしまおうのではないと思いましたが、講義の開始と同時に宮崎駿先生の「千と千尋の神隠し」をスクリーンに映し出し、「実はこの中に柳瀬川が出てきます」と正田先生。参加者の興味をぐぐっと引き寄せました。

他にも自前のノートパソコンを使つての、あたかも穴埋め問題を解いて行くかのような進行には、自身の中学や高校時代を懐かしく思った参加者も多かったのではないのでしょうか。

ここで講義タイトルでもある「柳瀬川のなりたち」に関して簡単に整理しますと..

「今から約10万年前の最終氷期に、海水面の上昇・低下や地殻変動等により、昔の多摩川(古多摩川)が形成した扇状地性の地形面が現在の武蔵野台地(武蔵野面)で、約6万年前の激しい海面低下でできた深い谷が柳瀬川である ※当日の配付資料より部分的に抜粋」とのことでした。

こう書くと全然分からないですよ！？ ところが、これが正田先生の手にかかると、誰でも「なるほどお〜」と分かってしまう、難しいはずの地学が不思議に理解できるのです。

エコシティ志木では、今後も機会があれば正田先生に講義をお願いするとのことでした。皆さんも是非、正田先生の講義を聞いてみて下さい。一度講義を聞けば、この先、家の近所を歩くときやどこかを散歩するときなど、きつとごく自然に地形に目がいくことと思います。

●「河童のつづら検定」のご紹介

学問と言えば検定がつきもので、近年の資格取得ブームにあっちは、世代を越えて資格を取得しようとする人が増え、検定試験なるものの受験機会も多くなっているようです。

そんななか、エコシティ志木では「河童のつづら検定」というクイズ集を11月1日に発行します。これはいったいどのようなものなのでしょう？

「河童のつづら」とは..

「志木まるごと博物館 河童のつづら」のことです。志木には荒川、新河岸川、柳瀬川の3本の川が流れています。川の流れがつくった自然や、そこで暮らす人々の言い伝え・文化財などがたくさんあります。地域のモノや人、暮らしをまとめてネットワークし、元氣なまちづくりを目指します。それが「志木まるごと博物館 河童のつづら」です。

「河童のつづら検定」とは..

地域に関するクイズ集です。「河童のつづら」のなかの自然や言い伝え、文化財、これら地域のお宝をクイズにしたのが「河童のつづら検定」です。クイズを解いていくと、自分の住んでいるまちについてどれくらい知っているのかをチェックすることができます。

なるほど！クイズを楽しみながら地域のことを知り、まちを元気にしようということですね！
回答用紙は12月15日まで受付、回答者には「認定証」などがもらえるそうです。



講義をする正田先生
途中パソコンの電源が落ちるといった
一幕もありました。



こちらが「河童のつづら検定」
配布先等は048-471-4275(毛利)
まで問合せ下さい！

